

## 発刊に寄せて

四年前、われわれは名古屋大学哲学会の設立を祝福した。いまここに会員諸君が、自らの研究論文集として、『名古屋大学哲学論集』の創刊号を出版する運びとなったことは、まことに喜ばしい次第である。

十二世紀の哲学者シャルトルのティエリーは、自由七科の解説書『ヘプタテウコン』の序文で、およそ哲学者たるものは二つの能力を必要とするものなることを説いている。すなわち一つは、真理を探究する知性の能力であり、いま一つは、獲得した真理を説明する表現の能力である。彼の主張の意図は、当然のことながら、自由七科の薦めであり、算術、幾何、天文、音楽の四課（クワドリヴィウム）が、知性を照明して明晰にし、文法、修辭学、論理学の三学（トリヴィウム）が、正確にして理性的且つ美しい説明の提供を可能にするというものではない。然し、この二つの能力を必要とするものは、二十世紀に哲学するわれわれにおいても変るものではない。而して、われわれはここに、真理探究の訓練の場としての哲学会と、発表表現の訓練の場としての哲学論集を自前のものとして持つことになったのである。その意義たるや至大というべきであろう。この会と論集とを足場として、これから有能な哲学者が育ち、大成してゆくことを期待するものである。

平成元年春三月